

# 千瓢

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌

第11号

発行日：2016年(平成28年)5月30日  
発行：富山県立大学同窓会会長 野開勝政  
編集：「千瓢」編集部 [編集長 池上 効]  
住所：〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内  
電話：0766-56-7500 FAX：0766-56-0396  
メール：senpyokai@pu-toyama.ac.jp  
URL：http://tpu-dosokai.jp/

## 巻頭対談

寺井幹男理事長×野開勝政同窓会長

# 新しい大学を目指して

今回は富山県立大学理事長の寺井幹男氏と野開勝政同窓会長の対談です。新しく変わる大学の姿について語ってもらいました。

### 初代寺井幹男理事長

野開会長 寺井理事長は県立大学が「地方独立行政法人化」されての初代理事長として着任し1年が過ぎようとしています。法人化の目的は、大学の運営体制をより自主的、自律的なもの、そして魅力ある大学づくりが求められているものと考えられますが、法人化になって大きく変わった点やこの一年を振り返っての感想などをお聞かせ頂けますか。

寺井理事長 昨年4月に公立大学法人になり、6年間の中期計画を立て、これまでの実績をベースに3つの目標を掲げました。1つ目は学生を大きく伸ばす教育力の高い大学（地域産業や国際社会で活躍する人材の育成）、2番目は未来を志向した高度な研究を推進する大学（ERATO事業等の最先端研究や地元企業との共同研究）、3番目は広く開かれ地域に貢献する大学（地域の知の拠点）を目指すこととしています。特に、県立の大学としての使命を改めて考え、産業社会を支える人材

2016年2月5日(金) 県立大学理事長室



対談中の寺井理事長（左）と野開会長（右）

の育成と若者の定着に一層貢献していくため、入学定員で100名増の大規模な拡充計画を立てました。こちらに勤務して感じましたが、県立大学は石塚学長を中心に教職員のまとまりがよく、大学開設以来の大きな拡充計画も急ピッチで立案してもらいました。高校卒業生の人口が減少する厳しい環境の中ですが、教職員一丸となって取り組みますので、同窓会の皆様の応援をよろしくお願ひします。

## 次

- 1 卷頭対談 寺井幹男理事長×野開勝政同窓会長  
新しい大学を目指して
- 5 竹炭入り黒酒(くろき)の開発 吉乃友酒造 廣島達彦
- 6 インタビュー 榊原 一紀 准教授
- 7 私の好きなもの 岸 康平／貴堂 寧正／浦田 清隆
- 9 退職にあたり 知能デザイン工学科 教授 野村 俊
- 9 はてな?クイズ
- 10 研究室の近況案内  
熱流体工学講座／情報メディア工学講座／環境デザイン工学講座  
／生物有機化学研究室／マイクロ・ナノシステム工学講座
- 12 ありがとうございます（広告掲載企業一覧）

- 13 大学ニュース
- 13 同窓会日誌
- 14 探しています（会員住所不明者の一覧）
- 18 3冊の本 安田 郁子／植松 哲太郎／奥田 實
- 21 平成27年度同窓会総会を振り返って  
平成27年度総会実行委員長 酒井 秀仁（機械工学3期生）
- 22 「平成27年度夏期ポートランド州立大学語学研修」報告書  
金 俊／赤池 美咲／安久 昌和
- 24 平成28年度同窓会総会のお知らせ
- 24 声
- 24 編集後記

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の1期生です。

**寺井 幹男(てらい みきお)**

公立大学法人富山県立大学 理事長

昭和50年3月 東北大学法学部卒業

昭和50年4月 富山県庁勤務

平成20年4月 富山県観光・地域振興局長

平成21年4月 富山県農林水産部長

平成25年4月 富山県教育委員会教育長

平成27年4月 公立大学法人富山県立大学理事長



## ■大学の拡充計画

**野開** 私自身小学生の頃から本校は身近な存在であり、自分の成長とともに大学が大きく進化し発展してきたことを嬉しく思っています。来年度以降の具体的な拡充計画を教えて頂けますか。

**理事長** 大学の拡充計画を立てるにあたっては、県内産業のニーズがどこにあるのか、企業アンケートや意見交換会を行って調査検討しました。その結果、機械システム工学科は複合材料分野、知能デザインはロボット関連分野を強化し、今年4月から入学定員を10名増やしました。

生物工学については、これまで多くの卒業生が医薬品製造業等に就職するなどの実績を上げていますが、これをベースにして、成長目覚ましい医薬品製造業とその関連産業を支える人材を継続的に育成していく「医薬品工学科」を作ることを考えました。薬学部ではないので薬剤師の養成は行いませんが、工学部として医薬品の製造・開発に関する教育研究を行います。来年4月から入学定員35名でスタートしますが、薬業界の要望に沿った、全国初の富山県らしい学科になると思います。

情報システム工学科については、県内企業が多い電気電子やIOTなどの分野を強化し、来年度から名称も「電子・情報工学科」に変更し、入学定員を30名増の80名にします。

環境工学科は、防災や社会基盤メンテナンスなどの分野を強化し、来年度から名称も「環境・社会基盤工学科」に変更し、入学定員を15名増やして55名にします。

さらに、質の高い看護職員の確保と女性の県内定着を図るため、県立総合衛生学院を改組して、入学定員120名の「看護学部」を設けることとし、平成31年度の設置を目指しています。

現在は、学生数約1200人の工学部の単科大学ですが、数年後には2000人以上の規模の複数学部のある大学となり、キャンパスに大変活気が出てくると期待しています。

**野開** 大学が大きく拡充されることは同窓生としても嬉しい限りです。いま、学生に求められているのは知識、教養だけではなく知恵や行動力も兼ね備え、さらには個々のコミュニケーション力のある人材だと思いますが本校ではどのように取り組まれていますか。

**理事長** 企業からは、コミュニケーション力、問題

解決能力のある人材が求められています。本学では、これまで少人数教育で丁寧な指導をしていますが、アクティブラーニングをさらに取り入れていきます。COC活動の成果発表会を見ても、プレゼンテーション能力にかなり個人差があるようになりますが、そうした体験を積み重ねることで成長していって欲しいと思います。

## ■県内就職率を高める

**野開** 昨年3月の新幹線開業により首都圏が大変近くになりました。また、能越自動車道の全線開通など県内の交通網は格段に向上しました。まして何と言っても自然災害の比較的少ない富山県は企業誘致等にも成功していると思います。特に小矢部市のアウトレットモールや射水市のプレステージ・インターナショナルそしてコストコ等のオープンにより地域経済の活性化にも寄与していると思います。是非、多くの卒業生にも富山県内で就職し結婚し住み続けて頂ければと思いますが、ここ最近の県内での就職率はどれ位なのでしょうか。

**理事長** 平成26年度の県内就職率は42%ですが、これを55%に高めていこうという目標を立てて、学生のキャリア形成の各段階で情報提供に努めています。例えば、平成27年度から企業で活躍しているOBとの意見交換会や機電工業会の技術者による特別講座などで、県内にも働き甲斐のある企業がたくさんあることを知ってもらうようにしています。さらに、県内企業に就職した県外出身学生に対し、1年間住宅費を補助するユニークな制度を始めました。

## ■女子学生が増える

**野開** 県内に魅力ある企業がたくさんあることを知って頂き、また、住宅費補助制度によって少しでも県内就職率が高まればいいですね。昨年の同窓会では女性も沢山参加されていました。これからも女性が参加しやすい同窓会にしていかねばならないと考えています。国の方でも盛んに地方創生が叫ばれており、これからは少子化に伴う人口減少が大変危惧されています。本校は工学部が主体な為、女性が少ない印象ですがこれからは女性の社会進出も期待して行かなくてはならないと思いますが。

**理事長** 女子学生は平成27年度では173名、16.8%(学部生)で少ないですが、10年前の約2倍になっています(H18年、65名、8.9%)。社会では女性が活躍する分野が広がってきていて、もっと工学部を目指してもらうために、女子高校生向けのPR冊子「工学 Girl」を配布して学生募集に努めています。今後、医薬品工学科、看護学部ができれば、女子学生が増えてキャンパスに活気が出てくると期待しています。

## ■同窓会の大学に対する協力

**野開** 私は前会長の荒木さんから同窓会長のバトンを渡され2年目となりました。昨年は同窓会が大同合併し10年目の節目ということもあり同窓会名簿の発刊をしました。また、新たに英語圏への

留学生にも補助をいたしました。これからも同窓会は大学との架け橋となり魅力ある大学づくりまた人づくりの為にも貢献していきたいと思っていますが、同窓会にはどういったことを期待されますか。

**理事長** 本学で学んだ多くの卒業生が、産業社会の担い手として各方面で活躍していることを大変うれしく誇りに思っています。また同窓会としても、在学生に対しポートランド州立大学の語学研修プログラムに助成するなど、様々な支援をいただいていることに感謝しています。当面は、入学定員100名増に伴い学生募集活動を強化することが重要と考えており、同窓生の皆様にも、いろんな場面で本学の良さをPRしていただき、入学志願者が増えるように協力していただければありがたいと思います。

**野開** 同窓会でも出来る限り母校のPRに努めたいと思います。本校には大変優秀な先生方や学生が大勢いらっしゃいます。同窓会の機関誌「千瓢」でもこれまで先生方や学生の研究内容等を掲載させて頂いています。これからも、社会の第一線で活躍されている卒業生の様子などを情報提供頂ければ機関誌に掲載し同窓生のみなさんに発信して行きたいと考えています。一方、今の大学の実態は外からは見えにくいといった声を一部の同窓生から聞いています。大学は生徒の為のものですから当然ベクトルは生徒に向けなければなりませんが外への分かりやすい発信にも取り組んで頂ければと思います。

**理事長** これまでも、報道機関の協力を得て、教員の研究成果や、学生の地域活動、卒業生の活躍などを情報発信していますが、本学の良さがまだ知られていない面があると思います。もっともっと情報発信を行い、本学の評価が高まるように努めていきたいと思っています。同窓会の皆様にもご協力をお願いします。

## 野開 勝政 (のびらき かつまさ)

富山県立大学同窓会 会長

昭和 52 年 3 月 富山県立技術短期大学 農林土木科第 6 回卒業  
 昭和 52 年 4 月 小杉役場勤務  
 平成 17 年 11 月 市町村合併により射水市役所へ  
 平成 24 年 4 月 射水市役所都市整備部次長  
 平成 26 年 4 月 射水市役所上下水道部次長  
 平成 28 年 4 月 射水市役所上下水道部部長  
 平成 26 年 8 月 富山県立大学同窓会長就任



**野開** 私は短大部でしたので在籍していた 2 年間はあっという間に過ぎ去ってしまった感がありますが、理事長ご自身はどんな学生生活を送られていたのでしょうか。ご自身のこれまでの歩みについて教えて頂けますか。

**理事長** 私は、仙台で学生時代を過ごし法学を学びました。当時は学生運動が盛んで、年中ストライキで授業が行われず、大半の学生が留年するなど、今の学生さんには考えられないような事態ですが、当時は異常とは思いませんでした。卒業後は富山県庁に入り、いろんな部署で仕事をしましたが、最後は県教育委員会の教育長を務め、そのご縁で今も教育関係の仕事をさせていただいているです。

## ■新湊の魅力

**野開** 理事長は新湊出身とお聞きしましたが、昨年、新湊の内川周辺でテレビドラマや映画の撮影が頻繁に行われました。特に、今春上映された「人生の約束」は素晴らしい映画だったと思います。私は 10 年前の市町村合併後、初めて内川を知った訳ですが、あの漁船が係留されている風景は大変印象深かったように思います。そして二の丸橋を初めとするいくつもの橋の架け替えや内川べりの整備、川の駅の建設そして曳山の展示などの事業に実際に携ってきました。それが映画のロケ地等に



## 総合建設コンサルタント 北建コンサル株式会社

測量・調査・設計・補償

代表取締役社長 鷲 北 慎一  
 本 社 : 〒933-0941  
 高岡市内免 3 丁目 3-6

TEL:(0766)23-3666(代) FAX:(0766)23-3987  
 支店／射水・南砺・東部・小矢部・金沢

水門・橋梁・除塵機・消雪設備・取水設備・ミニ発電設備・バイオ関連事業  
 設計・製作・施工



## 水機工業株式会社

代表取締役 大井 茂



本 社 富山県富山市黒崎172番地  
 TEL (076) 491-2533(代)  
 FAX (076) 423-3368  
 営 業 所 小矢部・金沢  
 ホームページ: <http://www.suikikogyo.co.jp/>



## みんなの よい食 プロジェクト

富山県 JA グループ

## 総合建設コンサルタント



## 株式会社 建成コンサルタント

代表取締役社長 瀬 川 光太郎

本社 〒933-0014 富山県高岡市野村 284-1  
 TEL 0766(25)6097 FAX 0766(25)5697

使って頂き大変うれしく思っています。理事長ご自身の曳山や内川の思い出話などがあればお聞かせいただけますか。

**理事長** 私は射水市の新湊で生まれ、今も住んでいますが、内川沿いの放生津小学校で学び、映画「人生の約束」で表現されたように、都会にない漁師町の気風が残っている環境の中で育ち、よかったです。

**野開** 理事長は仕事以外の生きがいというか趣味は何かお持ちでしょうか？

**理事長** 休日は気心の知れた友人たちとゴルフをするのが楽しみで、家では孫と風呂に入るなど育児の手伝いをするのが日課になっています。

## ■新しい大学を目指して

**野開** 最後に、どこの部署も同じですが経費(運営費)を削減され、やりくりも大変だろうと思います。県民に親しまれ愛される大学づくりが大変重要なと思っていますが、今後の目標というか、何か具体的な構想などがあればお聞かせ下さい。

**理事長** 県立の大学ですから、今回の拡充計画も産業界の意見を聞きながら検討しましたが、今後も広く県民の皆さんとの声を聞き、一層魅力ある大学にしていきたいと考えています。

大学の拡充により、学生と教員が大幅に増えますが、これを受け入れる新校舎を作ります。旧短大校舎の建て替えの分も含めた面積になりますので、大規模で高層の校舎を計画しています。新校

舎からは立山連峰や新湊大橋が展望でき、学生はそんな恵まれた環境の中で勉学するイメージを描いています。短大校舎で学んだ同窓生の皆様には夢のように思われるかもしれません、高校生が憧れて入学するようなキャンパスづくりを実現したいと考えていますので、皆様の応援をよろしくお願いします。

**野開** 同窓会はこれからも母校への熱い想いと絆を大切に同窓生、在校生に親しまれ愛される同窓会にしていきたいと思います。

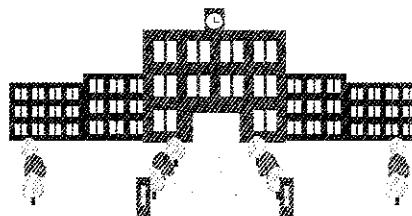
今後とも同窓会に対しいろんなご意見、ご提案をよろしくお願ひします。

本日はお忙しいところありがとうございました。

## 【対談を終えて】

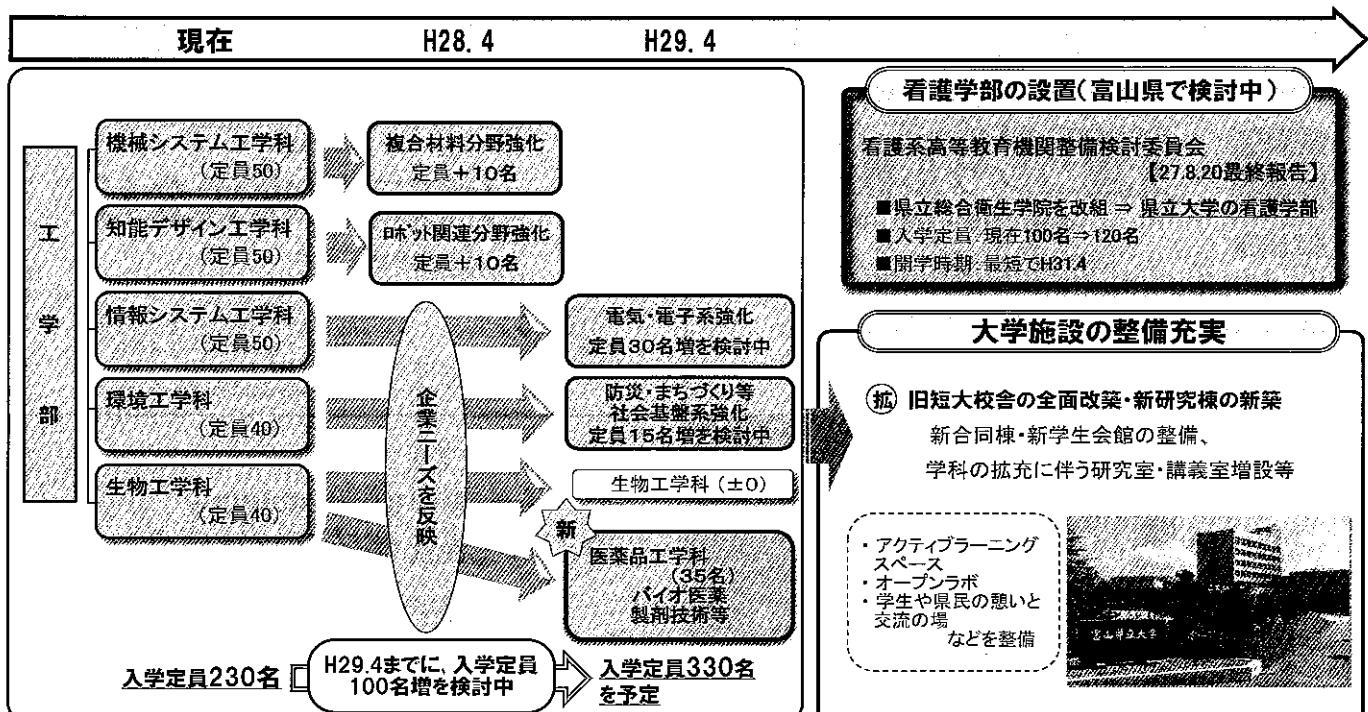
寺井理事長は大変気さくな方で終始優しい笑顔で対談に応じて頂きました。初代理事長として重責を担っておられます、積極的に県立大学の拡充や地域に根差した魅力ある大学づくりを進められるなどこれからも手腕にも大いに期待したいと思います。

我々同窓生も母校の発展を祈る気持ちが一つであることは間違いないが、今後とも同窓会活動の視野を広げるとともに一人でも多くの方に同窓会活動に参加して頂き、母校との絆を強め寺井理事長の支えになって行かねばならないと思う。



## 富山県立大学の拡充構想（案）

現在、富山県立大学では、県内産業等への人材供給と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、次のとおり学科の拡充・新設を検討しています。（平成27年作成）



# 竹炭入り 黒酒の開発

くろき

吉乃友酒造杜氏 廣島達彦さん

富山県立大学产学連携教育コーディネーターの山田恵宣さんが理事として関係している、竹林整備で里山保全に取り組んでいる射水市の「きららかネットワーク」(藤岡正明代表)と富山市婦中町の吉乃友酒造(吉田満社長)が竹炭入りの「黒酒(くろき)」を開発した。吉乃友酒造の杜氏として開発に当たった廣島達彦さんに話を伺った。

## きららかネットワークに入られたのは?

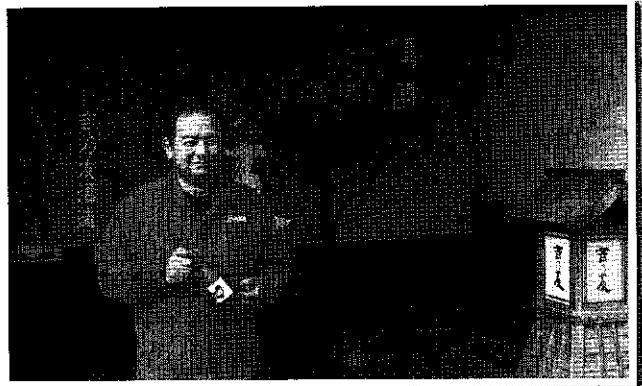
廣島 藤岡農園さんに「なしのお酒」を作るときに、声をかけていただき、そこで「きららかネットワーク」(藤岡正明代表)の藤岡代表やコーディネーターの山田恵宣さんを知りました。竹に興味がありナイフを使って竹トンボを作るのが好きで、勤め先の吉乃友酒造(婦中町)の近くで活動されている、「きららかネットワーク」に参加しました。竹に親しんでもらうために子どもさんに竹細工の指導などをしています。

## 「黒酒」の話は

廣島 「富山の山王さん」日枝神社の神主の平尾さんから、昔は新嘗祭に「白酒・黒酒」といって白い酒と黒い酒を対で飾り、奉納する風習があったが、今では黒いお酒がなくて困っていると言うことを聞き、竹炭を利用して作れないかと取り組みました。

## 順調にいきましたか

廣島 始めはどこから手をつければ良いか分からなかったが、秋田県の酒蔵さんが取り組んでいること



吉乃友酒造 廣島達彦さん

を知り、それなどを参考に取り組みました。黒い竹炭パウダーを利用してお酒に混ぜる方法が分からなかったが、粘りのある濁り酒を利用するにして黒い酒を作ることが出来た。でも黒色の具合がなかなかつかめず、パウダーの量を調節して、数種類の試作を重ねて完成しました。次は容器をどうするか考え、透明な瓶では黒が強くなり、白い磨りガラス瓶に落ち着きました。奉納するお酒を作ると言うことが開発の励みになりました。

## 「黒酒」のこれからは?

廣島 300ミリで800円(税別)と手頃なので、神棚に飾ってもらいたいですね。富山ブラックという商品が富山に在り、その流れの中でも売り込んでいこうと思います。好評なら白い濁り酒とセットで売りたいです。

### プレゼント「黒酒」 くろき 2本セット

- 読者の方3名に「黒酒」2本セットをプレゼント。
- 「黒酒」希望と書いてはがきかメールで申し込んで下さい。

〒939-0398 富山県射水市黒河  
富山県立大学内 「千瓢」編集部

## —前号プレゼント当選者発表—

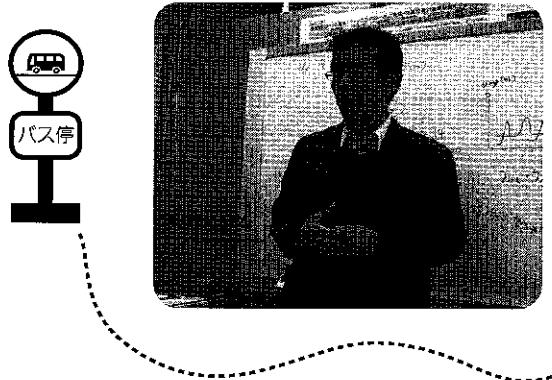


江尻康浩・佐伯孝・宇於崎秀夫  
当選おめでとうございます。

### 富山県立大学共同開発商品 赤ワイン

館身果・深沢広治・岩上知代  
当選おめでとうございます。

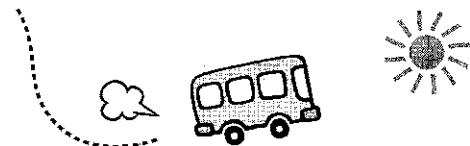




情報メディア工学講座  
榎原 一紀 准教授



## コンピュータを使い 社会の問題解決に取り組む！



—射水市が試験導入したコミュニティバスの検証に  
参加されたそうですが

榎原 射水市の要請を受けて、新しく導入されたバスの運行が適正であるかを検証しました。

—どのような方法ですか

榎原 住民、一万七千人分の年齢、性別、移動目的等のデータを用い、それに小杉高校生の家族へのアンケート等を参考に、コンピュータを使ったシミュレーション技術で住民とバス会社の双方にとって、料金、時間、快適度等を多面的に検証しました。結果は良好でした。この研究では文部科学省「地(知)の拠点整備事業」と連動し、小杉高校と高大連携を行いました。この研究は母校の神戸大学の研究者3名との共同研究です。

—富山の都市交通システムについてはどうですか

榎原 富山市は今コンパクトシティを推進していますが、その時、住民の希望や運用コストなど多くの要素があり、それをどう考えるかは、大変難しいが、それらを数値化し、コンピュータでシミュレーションして、実際に行う前段階で検証することは有望だと思います。さらなる発展としてこれはちょっと夢みたいです、富山県内で車がなく何処かへ行きたいときに、その情報を携帯等で知らせると、その情報を見た近くを走行中の車がその人を乗せて、相乗りで目的地へ着くというシステムも考えられる。個人一人一人がタクシーになるわけです。その時は富山の地理的用件や気質も重要な要素になると思います。

—本校の時間割作成に協力されたと伺いましたが

榎原 本校には約100名の教員、1000名の学生がいるのですが、補講といって教員の都合で正規の時間に講義の出来なかったときに、1週間の期間内に補講を行うことになっているのです。その時間割作りは大変な時間が掛かっていた。時間割作成に当たっては人と機械(コンピュータ)との対話を繰り返す型のプログラムを作り、今までの手作業での時間割作りに掛かっていた時間を約半分に削減できました。この研究の要是機械と人の対話による時間割修正を何回も繰り返し行い、完成させたところにあります。

—淡路島の近くの沼島で電力供給の問題を扱われたと伺いましたが

榎原 2012年から2014年までの3年間研究しまし

た。これは複数の大学の研究者と一緒にやったプロジェクトです。沼島という離島で、電力を自給自足できないか、島で使う電気を島で作り出す太陽光発電や風力発電やバッテリでまかなえないかの研究で、電力の地産地消です。

始めに島の電気の使用状況を調べ、それと同時に風力の時間差や季節による変化、それと日射量の時間差、季節による変動を調査して取りかかったのです。ここで一番重要なのは技術的には直流の技術を使ったことです。普通、家庭用電力は交流を使います。交流は遠くへロスなく電気を送れ、全体を制御しやすい特徴がありますが、その反面、太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入に困難が生じます。そこで今回は直流を採用しました。直流自体には技術的な問題が多いのですが、それも直流の研究者と解決して進めました。私はこのプロジェクトではシステム全体構成の設計・評価を担当しました。具体的には風力発電、太陽光発電、バッテリ等の電力をどのような割合で使用すれば良いかを検討しました。風力は風が吹かないとき発電しないし、太陽光発電は雲が出れば発電できない、それをバッテリ等で補う、どれだけ各発電で必要かを検討して決定して、その決められた値の発電量を各発電方法でクリアしてもらうのです。個々の技術がお互いの技術に関係しながら目標の量を決めてシステムを構築しました。

—多くの問題を取り組んでおられますか

榎原 世の中のニーズ(問題)に対して、数学をベースに機械学習・最適化等の手法をシリーズとして使い問題を解決します。私自身、システム科学技術を応用して個々の問題を解決する手法の接点にいると思っています。3つのレベルがあると思います、人間と機械、個人、社会、多くのレベルの問題を解き明かし、全体として幸せな世界を作るお手伝いになればと思い研究を続けています。

インタビューを終えて

その他にも蝉がなぜ素数年に大量発生するかなど興味深い話が出た。研究室でのインタビューの途中で詳しいデータが必要になった時、研究室の学生さんから資料が画面に送られてきた。さすがコンピュータを駆使した研究室だと思った。この研究室から何かが生まれるのではないかと感じた。



# 私の好きなもの



**岸 康平 (きし こうへい)**

機械システム工学科2年

①鉄道

私は、幼少期より鉄道が好きです。中でも特急、特に新幹線が大好きです。新幹線は速達性、安全性、機能性に優れていてかつ時間に正確でふるむもかっこいいというまさに化け物電車です。他には、大都市の地下を高速で走る地下鉄や貨物列車等も好きです。鉄道には面白い要素が沢山あるので皆様も鉄道の旅に出かけてみてはいかがでしょうか。

②麻雀

麻雀は言わずと知れたテーブルゲームです。麻雀を打っているかたは分かると思うのですが、その日の運やその場の流れなどによって結果が変わってしまうといった具合に大変不気味なゲームです。時には確率を度外視したことなども起こります。このギャンブル的要素がたまらんです。また、手と脳

を同時に使うので老化防止にもなるそうなので年老いてもなお好きでいたいです。

③野球

野球の中でも私は特にプロ野球が好きです。野球はただ見るだけでなく、実は野球には打率等以外にも様々な指標があって、それをもとにこの選手はこんなでこの打順が似合うとかを考えるのもまた楽しいです。他にも応援歌や、守備体形など野球は多面的な見方ができる面白いです。

《近況報告》

桜も咲き、プロ野球も開幕しいよいよ新年度がやってきました。この春から私は3年になり卒業にむけ大切な時間になるとともに夏休みにはインターンシップもあるので、まずは一日一日を大切に過ごしていきたいです。それと同時に学生生活も謳歌していきたいです。

**貴堂 寧正 (きどう やすまさ)**

大学院前6機械・2001年卒

①キリン「ハートランドビール」

ビールでは大好きな銘柄。特別な日や、自分への御褒美用。私の場合、ビールは直ぐにお腹が膨れてしまい、多くは飲めないのだが、こいつはいくらでも飲める。普段は第三のビールを飲んでいるため、たまにハートランドを飲んだ際に、一層引き立つ風味がたまらない。近年、取扱店が増えて喜ばしい。

②八幡屋磯五郎「BIRD EYE」

愛用の超大辛一味唐辛子。これ以外の辛子だと物足りない。一時期、携帯用の小分けタイプも常備していたが、使用量の調整に難があり、やめた。ぶりかけの「ゆかり」みたいなスティックタイプの商品

化を切に願う。

③Vドラマ「孤独のグルメ」

面白過ぎる。漫画よりドラマ版の方が好き。よく実写化したと思う。松重豊演じる主人公の、独特的のテンポのセリフや食いつぱりは観ていて、つい笑ってしまう。このドラマを観ていると、何気ない日常に対する観察力や表現力が豊かになれる。

《近況報告》

前年号まで行方不明者でした。同窓会の事務所関係者と久しぶりに会った際、折角だからと住所を登録。その結果、なぜだか執筆する運びとなりました。上述の「好きなもの」は食関連ばかりとなりましたが、飲んで食べてばかりではないので御心配なく。

**浦田 清隆 (うらた きよたか)**

大谷技術短期大学 機械科2期生・1965年卒

①野 球

中学生の時から野球に親しんで60年、65才になる年に富山県生涯軟式野球連盟の還暦野球チームのオール富山野球クラブに参加。今年は体が動けなくなってきたので声だしで頑張ろうと思っている。

私が昭和33年郡代表で県大会に出場した吳羽中学は春、夏連続優勝の偉業を達成した。この夏は魚津高校の村椿投手が活躍し、徳島商業の坂東投手と

延長18回、再試合は語り草である。また、富山国体のあった年もある。

農家なのになぜか商業科に進み、3年間野球に没頭したが、甲子園の夢は絶たれた。6年間、楽しく野球を続けられた良き時代を過ごしたなと思っています。

オール富山チームに入ってから8年、32チーム参加の西日本大会の3位1回、2年連続準優勝のことも。これからも野球を続けていこうと思う。

②演劇鑑賞

富山演劇鑑賞会に入会したのは2000年頃、16年も経つ。会は今年で50周年を迎え、年6回の例会

の開催で、この4月の公演で300回目の例会となる。

昨年の12月に平幹二郎の「王女メディア」の公演があり、82才の高齢になっても舞台に立ち、古代ギリシア神話を伝承された、紀元前8世紀の悲劇で、ねたみや嫉妬、呪いなどの人間がもつ不变の相の「ありのまま」描いた作品は年を感じさせない、ぞっとするほどに恐ろしかったのに神々しく、力強い演技で感動した。

演劇を鑑賞するに、役者、舞台装置、照明、トラック一台にぎっしり詰め込んだ大道具、小道具、スタッフ等、見方を変えた時に、また違った演劇を鑑賞できる。

会員の数は景気に左右され、バブルの1990年頃は最高を記録したが、今は少し落ちている、日本の芸術文化を盛り上げたいと願うのは会のスタッフばかりではあるまい。

### ③袖擦れ合うも多生の縁

今から8年ほど前、東京から特急はくたかでの帰りで学生らしき女性が隣の座席で用紙に細かな文字を書き込み、しかも30枚位も持っていたので卒論ですか?と尋ねたら、これから金沢へ出掛け前田利家の「まつの方」の資料、文献を調べていくとのこと。話が弾んで名刺交換をした。学習院大学大学院史学専攻博士前期課程を取得中であった吉成香澄さん。現在豊島区教育委員会文化財保護専門員で日本近代史徳川將軍姫君の婚姻や生活費、幕藩関係について研究している。

昨年11月に江戸東京博物館で徳川將軍の姫君の婚礼の様子、婚姻手続きについて当時の文献や絵画などの資料をもとに紹介し。200人余りの聴衆の前で講演された。ゆくゆくは大学で教壇に立つことを願っているとのこと。30代半ば、目標が成就されるようエールを送りたい。

昨年12月に体の変調で検査入院をしたとき、相部屋で話した一回り上の86歳位の岩脇さん。お話を

しているうちに、昭和38年に県立大谷技術短大の農場助手として勤務されたと聞き、私も同じ年に機械科に入学したのでびっくりしました。

岩脇輝一さんは短大の近くの黒河に住んでいて、当時機械も揃っていないから家のトラクターを持ち出して作業をしたという。35才前後の時、父親から給料安いけど短大へどうだと言われて定年まで働いていたそうです。特に中沖知事さんに守衛や給食係、業務助手等の階級を東京まで出向いて1級上げてもらったことが嬉しかったそうです。そしてお陰でこうして年金暮らしをしていると語られた。風邪ぎみであったが元気でおられることをお祈りする。

### 《近況報告》

現在、機械部品加工業を現役でやっている。かれこれ40年になる。元気なつもりだったが難病指定の申請をしている。中学の同級生と会えば病気の話し、血糖値、前立腺、糖尿病、胃ガン、大腸ガン、数値や病気についてもだんだん詳しくなる。しかし、老いても日々目標や目当てを持って長生きできるのではないかと思っている。今回、編集長の池上さんと演劇鑑賞会で偶然お会いし、この機会を持った。拙い原稿になったがなにか書いてみるのも良しとの気分である。人生70才、これからが青春!

### 同窓会名簿を発行

平成17年に短大部(千瓢会)と工学部(工学部同窓会)の同窓会が合併して富山県立大学同窓会が生まれました。合併10周年を記念して「富山県立大学同窓会会員名簿(A4版303P・平成27年8月15日)を発行しました。

名簿作成の途中で、不明会員の方が多く判明しました。今号でも「探しています」欄で不明会員を載せています。知り合いの方が見つかりましたら、事務局まで連絡して下さい。



緑を育み、未来へつなぐ  
**株式会社 サカエグリーン**

代表取締役 山本 栄

〒930-0171 富山県富山市野々上150番地  
TEL (076) 434-0036  
FAX (076) 434-4968  
HP <http://www.sakaegreen.com/>

サカエグリーンはカターレ富山を応援しています

ゆたかな経験 確かな技術

**総合建設業**  
**中越興業** 株式会社  
CHUETSU

代表取締役 山下 順雄

本社 富山県南砺市野口800番地 TEL (0763) 62-1221  
富山支店・岐阜営業所 FAX (0763) 62-1222

…地域の未来をつむいでいきます…



**株式会社 上智**

代表取締役 社長 楠 則夫

●測量・設計・補償・地籍調査 ●3Dレーザー計測・システム開発

本社 富山県砺波市千代176-1 TEL (0763) 33-2085

支店 富山・石川・新潟・三重・あわじ・中四国 他

<http://www.johchi.co.jp>

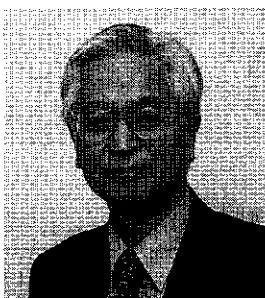
理化学器機・産業機器 計測・試験機器

**山本理化**  
山本文雄

〒930-0887 富山市五福二区5369

TEL: (076) 432-1658 FAX: (076) 432-1659

E-mail: [yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp](mailto:yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp)



# 退職にあたり

知能デザイン工学科 教授 野村俊

退職にあたり、これまでの思い出とお札を述べたいと思います。

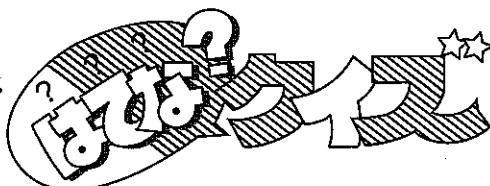
1976年4月、私は富山県立技術短期大学機械科の計測分野の助手として採用されました。技術短大は実験と実習に重点を置いており、その経験を基に講義を行うという教育方針でした。レポートについては何度も添削を行い、学生に報告書の書き方を徹底的に教育しました。当時の学生は素直にそれに従い、日増しに成長する様子をうかがうことができ、短大の本科2年間と専攻科1年間で、4年制大学の卒業生と遜色ない学生を育て送り出すことができました。経験を積ませた上でそれに関連した講義を行って教育するという方針は、学生の学習意欲が高くなり、教育効果が高くなると実感しました。

赴任当時、将来、技術短大を4年制の大学にする計画があり、私が修士課程の修了ということで、西田正孝学長から早急に学位を取得するよう求められました。修士課程では光応用計測の研究をしており、これを続けて行こうと思いましたが、研究費が少なくしかも設備も無いことから、当時高岡にあった富山大学工学部に夜間に伺って実験をさせていた

だきました。さらに、学外研修で理化学研究所と東京工業大学にお世話になりました。お蔭様で東京工業大学から工学博士の称号を授与することができました。

1990年4月、県立大学が発足し、機械システム工学科機械力学・機構学講座の助教授に着任することができました。当時の講座の教授は宮代裕先生で、専門は流体分野でしたが、欧文誌の書き方を厳しく指導していただきました。また、神谷和秀先生を助手として採用し、企業からの依頼による共同研究を多く行いました。さらに学会の技術専門委員会に参加し、多くの大学や企業の方々と知り合うことができ、これらの方々との共同研究を通して学生の指導を行い、学生の成長を目の当たりにすることができます。

教育と研究のみならず、大学運営でも多くの教員や事務職員のご指導とご協力をいただき、40年間の幸せな教員生活を送ることができました。ここに深く感謝申し上げますとともに富山県立大学の益々の発展を祈念してお札の挨拶とさせていただきます。



「千瓢」で今号から連載が始まる、コラムのタイトルは？

答えは ○冊の本

☆はがきで下記のあて先へ答えと住所・氏名を書いて応募下さい。正解者10名に図書カード(500円)進呈。正解者多数の場合は抽選とします。締切8月末(当日消印有効)。答えと一緒に「千瓢」の感想も書いて下さい。メールでの応募、同封のはがきでの応募いずれも可。

〒939-0398 富山県射水市黒河  
富山県立大学内「千瓢」編集部  
E-mail senpyokai@pu-toyama.ac.jp

## 「千瓢」10号クイズ当選者発表

<第10号クイズ>

富山県立大学で毎年行っている「中国・大連での企業実務研修」は今年の8月研修で何回目になりますか。(ヒント・今回の研修レポートを参考にして下さい。)

答えは 3回目です。

正解者は以下の方々です。(敬称略) 図書カードをお送りしました。おめでとうございます。

位寄史好・水野晃美・高松友見・早川俊一



# 研究室の近況案内

## 熱流体工学講座

宮本 泰行 準教授

流体(ガスや液体など)にエネルギーや目的物質を加えて循環させるシステムは、私たちの日常生活を支える基本技術の一つです。私の研究室では、こうした技術に関わる流体の中でも、次世代冷媒、水素改質材料、およびセミクラストハイドレート生成系などを対象に、実用化に不可欠な熱物性データの高精度な測定とそのモデル化を進めています。

冷媒は、世界で2億台が稼働していると言われるヒートポンプに欠かせない物質ですが、環境負荷が大きいため代わりとなる物質(次世代冷媒)の開発が求められています。世界で使われている冷媒の環境負荷と危険性(毒性、可燃性)とは概ねトレードオフの関係にあるため、欠点を補いあう新しい混合系が次世代冷媒として提案できますし、このトレードオフの関係に属さない全く新しい人工冷媒も開発されつつあります。本研究では、双方のアプローチそれぞれに熱物性の面から貢献すべく、国内外の研究者との共同研究を進めております。

また、水素改質材料の研究は最近始めたばかりです。水素はCO<sub>2</sub>を出さないうえ、すべての再生可能エネルギーから生成することができます。脱化石燃料と再生可能エネルギー普及双方のカギを握っています。そんな水素の大量輸送と貯蔵には、改質材料の熱物性の正確な掌握は不可欠ですので、世界初

## 機械システム工学科

の状態方程式の整備を目指した共同研究を、現在実施中です。

さらに、ガスの輸送や精錬に役立つのではないかと期待されている人工物ハイドレートの研究も行っています。ガスの溶解度の解明が主な目的で、様々なイオン水で作成したハイドレート(セミクラストハイドレート)を対象に、こちらも共同研究を実施しています。

宮本研究室では、研究成果を共著で国際誌や国際学会に投稿することを最終ゴールの一つと定め、今年までに学部生22名、修士課程学生10名が卒業しました。実験は非常に大変だったと思いますが、成果

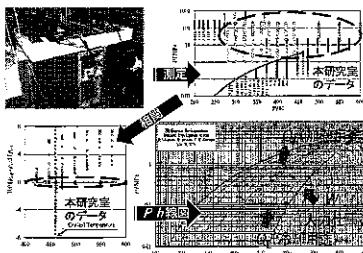


図1 热物性の実測とモデル化

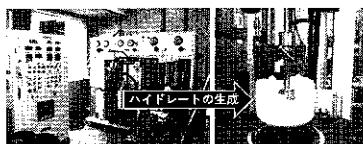


図2 人工物ハイドレートの作製

投稿までに様々な困難を乗り越えたことは社会に出た彼らの糧になったと信じておりますし、時折遊びにきてくれる彼らの立派に成長した姿は大変嬉しく励みになります。本年も研究による社会貢献と共に、研究室の学生の育成に努めたいです。

## 情報メディア工学講座

小林 香 講師

スタート時の研究室の名称は「電子情報工学科通信工学講座」。片山勤教授の指導のもと、さまざまなシステムをモデル化し、伝送遅延時間などでモデルを数値的に評価しました。インターネットのハジマリの頃で、計算に使用するコンピュータは自分で環境を構築しなくてはならなくて、ネットワークに接続するならその知識も必要だし、工事のために床にもぐったり、天井裏に上がったりは当然のこと、DIYな研究室でした。

学科改組に伴い、「情報システム工学科情報メディア工学講座」に名称が変更し、学科定員が80人から50人になって研究室に配属される人数が少なくなり、コンパクトな研究室になりました。研究テーマもインターネットなどのコンピュータネットワークの計測・評価から、計測結果を処理して異状の発生検出やその予測、さらに二次利用しやすい情報の可視化手法などに移行しました。

## 情報システム工学科

開学から20余年経って大学自体も大きな変革の時期を迎え、学生の気質も大きく様変わりしているように思います。とかく「コピペ」で済ませてしまう中、定まった答えのない課題の解決に向かって「文献調査(手法の整理)」「事前予測(こういう結果が出るはず)」「予測と実測の検討(なぜ違うのか)」「考察・文章表現」などの基礎体力を付けて、社会に送り出すという大学の役割には変わりはないでしょう。問題を考え続ける忍耐力を涵養できる研究室で

ありたいと考えています。



写真は2015年8月のダヴィンチ祭での製作教室「ケイズ早押し判定回路作成」のために論理回路の復習に取り組む研究室の学生です。

## 環境デザイン学講座

古谷 元 講師

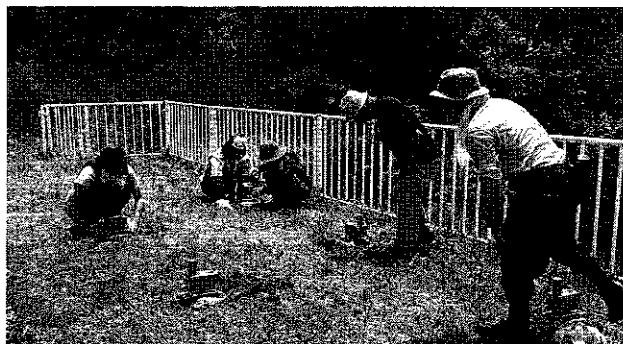
富山は日本でも住みやすい県・地域と言われています。それは、おいしい海の幸やお米が簡単に手に入り、美しい立山連峰が街の中から望むことができ、そして大きな災害が無い県土が広がっているからだと思います。ところが、過去を振り返ると、富山は数多くの土砂災害を繰り返してきました。例えば、安政5年の飛越地震では、鳶山が崩壊して常願寺川に天然ダムをつくり、これが決壊して富山城下で大きな被害が発生しました。近年では、昭和39年に氷見市胡桃で大規模な地すべりが発生し、集落全体が一挙に壊滅しています。規模の小さいものは、現在でも県内の中山間地や傾斜地で毎年発生しています。

本研究室では、山崩れ（地すべり・斜面崩壊）を対象とした災害を事前に防止する、もし災害になったとしてもできる限り軽減させるため（防災・減災）の方策へ役立たせるための基礎研究を、応用理学および土木工学の側面から展開しています。また、地盤の揺れやすさ（地震動による地表面の増幅の度合い）についても、現地計測の視点から手がけています。

その例として地震計を用いた地盤構造調査の写

真を挙げます。これは、卒業研究のテーマとして行われたものです。この研究では、複数個の地震計を並べ、極めて微少な振動を捉えて地盤の硬軟を調べています。場合によっては、埋没した昔の地形も推定することができます。

本研究室の研究は、一見して非常に地味に見えます。しかしながら、防災・減災に役に立つ内容は、現場や実験のデータを正確に、かつできるだけ多く手に入れるか、によって左右されます。私は、研究室に配属された学生さんに、真の解は机上では無く、現場にある、と言っています。今後も、このようなスタンスのもと、学生さんとともに研究室を運営したいと思っています。



地盤構造調査（地震計を使用した例）

## 生物有機化学研究室

中島範行教授、岸本崇生准教授、濱田昌弘講師

生物工学研究センターの4階に生物有機化学研究室があります。3名の教員（中島範行、岸本崇生、濱田昌弘）と、学部3年生6名、学部4年生7名、大学院修士課程1名、大学院博士課程1名（2016.2.1現在）からなる研究室です（写真）。

研究室では、「有機化学」、「天然物化学」、「有機合成化学」、「リグニン化学」、「機能性食品成分」、「木質バイオマス」をキーワードに、天然から微量にしか供給できない化合物を、大量に高純度で合成し、その機能や活性等を追求しています。また、目的にあった化合物を任意にデザインし、自在に合成できるよう、高収率・高純度・高選択性の合成方法や試薬などを研究、開発しています。

研究テーマは大きく分けて以下の5つです。1) 茶ポリフェノール類の合成と活性の評価：高度で複雑な構造を有するプロシアニジン類や茶ポリフェノールの代謝産物の合成と活性評価を行い、高機能な物質の創製を行います。2) ペプチドグリカン生合成阻害剤の創製：誘導体合成を念頭に

した全合成研究を行っています。3) ポリグリセロール誘導体の合成と機能追求：直鎖および環状ポリグリセリンの合成を通じてその機能を探索しています。油脂固化剤や、医薬品の基剤、センサーなどの機能性素材への応用を検討しています。4) 人工リグニンポリマーの合成：構造の明確な人工リグニンを合成し、リグニンの機能や反応性の解明、機能性材料への変換等の検討を行っています。5) バイオマスリファイナリー：イオン液体を用いた木質バイオマスの成分分離と有用ケミカルの生産のための技術開発を目指しています。この他にも、凍結防止剤や新規抗がん剤の開発など新たなテーマにも取り組んでいます。

研究やテーマに興味のある方はぜひお知らせください。



2015.12.1 研究室での集合写真

## マイクロ・ナノシステム工学講座

松本 公久 講師

私たちの研究室では、光を使った形状計測や半導体の物性測定を行っています。研究室のメンバーは、私以外に神谷教授と大学院生8名、学部生5名で構成されています。私は主に半導体微粒子の1種であるシリコンナノ結晶の作製を行い、その性質の光を少照射し測定する、いわゆる光物性の研究を行っています。シリコンナノ結晶とはその名の通り、ナノメートルオーダーのシリコン(ケイ素)の微粒子のこと、量子サイズ効果と呼ばれる物理現象によって、赤色から赤外域で発光を示します。またシリコンは埋蔵量豊富で低コストで入手することができる材料です。そのため、レアメタルが使われている現在の発光ダイオードの代わりとなる将来の発光材料への応用が期待されています。またシリコンは人体に対して、無毒であることが知られており、生体適合性の高い材料として知られています。よって、生体内の様々な生理現象をモニタリングするバイオラベルの応

用も期待されている。

我々の研究室では、シリコンナノ結晶の発光効率を、製品応用できるレベルまで改善することを目指とし、大学院生を始めとするメンバーが日々研究を進めています。シリコンナノ結晶自体の作製も熱処理や、化学プロセスを使って、研究室内で行っています。また、作製したサンプルの発光強度や波長も研究室にある物蛍光スペクトル測定装置を使って行っています。自ら作製したサンプルの物性評価を行うことが、我々の研究の醍醐味ではないかと思います。

我々の研究室では、研究一辺倒ではなく、頻繁に飲み会を行っています。特に夏に行われる牡蠣パーティーと呼ばれる飲み会では、富山大学の研究室と合同で、岩牡蠣とバーベキューを楽しめます。

本研究室では、特に蛍光スペクトル測定を中心とする光物性の評価に関するノウハウがあります。発光材料の物性評価に関してはいつでもご相談ください。



前列左から4番目が神谷教授、後列左から5番目が松本講師



### 広告掲載企業一覧

加藤哲設備設計事務所、株式会社紙屋ガラス建硝、株式会社建成コンサルタント、株式会社サカエグリーン、株式会社上智、株式会社新日本コンサルタント、株式会社中部設計、北建コンサル株式会社、三協立山株式会社、水機工業株式会社、竹沢建設株式会社、中越興業株式会社、砺波工業株式会社、富山県農業協同組合中央会、山本理化



### 3冊の本

答えは「千瓢」で今号から連載が始まった、コラムのタイトルです。お気に入りの3冊の本について書いてもらうコラムで、お楽しみ下さい。

# 千大学ニュース

## 役職教員

● 理事長	寺井 幹男
● 学長	石塚 勝 教授
● 副学長・工学部長	松本三千人 教授
● 学生部長	中村 清実 教授
● 副学生部長	中川 佳英 教授
● 工学部	
教養教育主任教授	石森 勇次 教授
機械システム工学科主任教授	森 孝男 教授
知能デザイン工学科主任教授	高木 昇 教授
情報システム工学科主任教授	鳥山 朋二 教授
生物工学科主任教授	伊藤 伸哉 教授
環境工学科主任教授	渡辺 幸一 教授

## 昇任

● 工学部	中川 慎二 教授
機械システム工学科	神谷 和秀 教授
知能デザイン工学科	本吉 達郎 講師
知能デザイン工学科	唐山 英明 教授
情報システム工学科	伊藤 始 教授
環境工学科	

## 新規採用

● 工学部	清水 義彦 准教授
教養教育	上村 一貴 講師
知能デザイン工学科	澤井 圭 講師
生物工学科	松井 大亮 助教
生物工学科(医薬品)	春成円十朗 助教
	村上 達也 教授
環境工学科	小山 靖人 准教授
	安田 佳織 助教
	吳 修一 准教授
	中村 秀規 講師

## 退職

\*平成28年3月31日をもって退職されました。  
長い間お疲れ様でした。

屋代 春樹 准教授(機械システム工学科)  
平成18年10月～平成19年3月 工学部助教授  
平成19年4月～平成28年3月 工学部准教授

野村 俊 教授(知能デザイン工学科)  
昭和51年4月～昭和56年3月  
技術短期大学機械科助手  
昭和56年4月～平成元年9月  
技術短期大学機械科講師  
平成元年10月～平成4年3月  
技術短期大学機械科助教授  
平成2年4月～平成13年3月 工学部助教授  
平成13年4月～平成28年3月 工学部教授

# 同窓会日誌

No.14

この日誌は富山県立大学同窓会の荒木薰事務局長の日誌です。

2015年7月10日～2016年3月5日

## 【2015年】

7月10日

26年度会計監査の日でした。監査のお二人に見て頂き無事に終了しました。

8月11日

同窓会開催の準備がほぼ完了しました。後は当日を迎えるだけです。

8月14日

実行委員の方々のおかげで今年もたくさんの同窓生、役員、教職員の皆様に来ていただきました。同窓生の方々が受付で久しぶりに再会を喜び合う姿にふと当時の学生時代も思い出されました。

9月17日

27年度の同窓会総会・同窓会の片づけ、支払いがすべて完了しこれで一安心です。と同時に来年に向け実行委員の選考が始まり動き出しました。

10月24日

27年度同窓会の実行委員と役員出席者、来年度の実行委員の方も交え打ち上げを行いました。昨年以上に繋がりができ頼もしい先輩方に本当に感謝です。

10月31日～11月1日

県立大学の学園祭です。同窓会からは10万円を助成しております。

いつもとは違った格好で学生さんたちが学内をうろうろしている姿が面白く感じます。

11月5日

紅葉が真っ盛りな中、業者さんが校内の木に雪つりをしています。編集長と「千瓢」11号の編集会議です5月発行に向けて内容の確認、進め方等を話し合いました。今回は前回より2か月前倒し発行するので準備に向けて印刷業者さんとも話し合います。

## 【2016年】

1月22日

昨年の実行委員の炭谷さんに、千瓢の編集のお手伝いをしてもらうことになりました。違った目線で変化ができたらしいなと思います。

2月5日

次号の千瓢メイン対談、理事長、会長対談でした。理事長と会長の前準備のおかげでスムーズに進ることが出来ました。

3月5日

第三回実行委員会が開催されました。前実行委員の方々、今年度実行委員長の田中さんをはじめ数名の参加でした。場所、日程の決定。本格的な内容が決まりこれからは実行委員の方々の動きです。今年もたくさんの同窓生に会えますように。



# 探しています

住所をお知らせ下さい。(会員住所不明者の一覧です。)

次ページにつづく

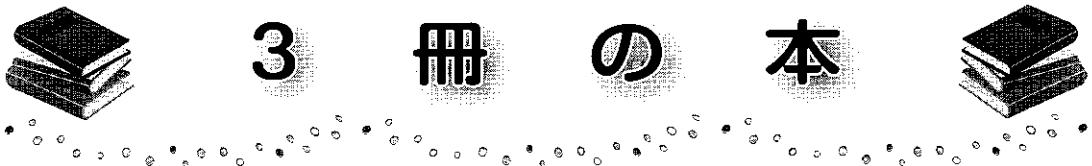
(大2009電子)  
 恵輔 優輝 真鵬 作里 志香 平々朗 一香 季沙 加香 二太人 裕音 行貴 沙か 香明 梢希 可緒 李茜 美圭 季笑子 尋咲也 裕也 佳人 一子 頤弘 裕薰 作介 朗陽 敏菜 和翔 武郎 冬和 紀 (大2009電子)  
 靖亮 繁和 竜優 香由 祥菜 知翫 智実 知有 美慎 晃直 和孝 裕愛 理や 春千 奈津 菜枝 貴 美萌 亜千 實哲 千達 彩崇 純麻 基幸 知 健慶 祐太 雅 春正 勇 祐 優薰 有  
 根後 井 村 見川 川中 上橋 房原 川尾 田見 村川 山藤 原島 日端 川田 崎野 原村 平代 山尻 田本 由下 田岡 杉田 藤井 山田 本上 黒藤 岩中 井 松野 村田 林木 藤木 嶋 田  
 羽兵 松孟 吉梁 重黒 新野 川高 花藤 細松 岩宇 川北 北佐 荻青 朝池 石石 岩上 菅杉 高田 遠野 架藤 三山 山吉 若池 内平 北園 塚村 石加 黒田 西林 森清 奥栗 小佐 佐 鈴野 林古  
 宏忠 貴隆 雅裕 彰優 明慎 和裕 知健 寿慎 寿陽 和格 聰啓 浩聰 紗恭 智佳 佐正 曉英 真和 研憲 良真 桂廣 登恭 悠美 慎太 敬丈 聰将 克茂 輝邦 達成 迪健 宏拓 尚  
 嶋部 本嶋 井東 田水 中野 嶋口 野本 原出 田田 丸木 林内 新岡 野田 田角 井原 野畠 井田 本山村 松崎 田田 永谷 田頭 原山 内谷 木井 谷津 本邊 田見 藤竹 橋島 原  
 寺渡 稲北 堀伊 黒清 田知 辻宮 山奥 岩大 岡上 前有 市大小 竹中 波上 林藤 前西 荒井 浦川 京桐 笹中 納乘 弘松 池松 水池 鬼藪 杉竹 林古 鈴平 古見 山渡 木毛 後小 高田 陳野  
 敏紘 裕将 友晃 隆貴 雄克 祐陽 了惠 博寛 貴厚 知茂 浩康 紀舞 貴麻 崇順 司昌 佳浩 康亮 伸崇 正雅 祐昌 正拓 宗秀 健貴 敏和 理久 崇高 修宏 智貴 貞陽 耕奈  
 木田 岡野 野川 見本 嶋上 山岡 田邊 道山 邊畠 伯川 地藤 門田 田西 木村 澤本 田辺 田越 嶋木 井倉 田岡 本東 島田 林林 田山 井坪 野塩 藤橋 内山 口林 内田 田山村 田田 井  
 鈴須 高東 藤古 邊松 宮村 元森 山渡 奥杉 渡大 佐皆 生加 加柴 砂中 土野 深吉 渡池 上牛 大鈴 永名 福松 山伊 上内 浦神 菅杉 東大 大岡 尾加 高竹 西山 小竹 寺中 中野 前増 松  
 豊仁 亮寛 哲千 弘立 圭智 泰正一 健太 雄季 喬伸 美充 玲伊 子司 勉徳 学剛 徵介 補卓 也悟 進旭 宇文 平平 俊吾 充友 希基 治太 修平 彰之 太一 貴興 良太 郎司 大諒哉 太也 智也  
 井村 島村 池崎 森岡 崎野 出藤 村谷 莊下 山塚 銅口 前谷 堂本 谷本 本内 西谷 原田 野垣 田谷 地 野田 手山 野山 野谷 賀内 坂牧 田田 垣村 羽生 田橋 藤野 村門 野  
 酒中 長新 林平 宮宮 森山 河北 近田 西北 山青 赤鶴 江越 奥桶 倉笛 橋堀 今坂 谷野 林吉 西原 深明 金楠 任水 相并 砂辻 中中 平水 佐竹 川小 戸森 荒西 丹麻 勝高 武水 大加 佐

※一部古いデータが入っております。  
お知らせいただいた情報が反映され  
ていない場合はご了承ください。

※( )内について  
(短6環境)

- 学科名
- 卒業回
- 大谷技術短大
- 技術短大
- 短期大学部
- 工学部
- 大学院前期
- 大学院後期

お友達のお名前がありましたら  
住所をお知らせ下さい。



今回より連載がスタートしたこのコーナーは、それぞれ3冊のお気に入りの本を選んでいただき、コラムを書いてもらうという企画です。みなさんもお気に入りの3冊はありますか。今回は3人の方に書いていただきました。

安田 郁子・植松 哲太郎・奥田 實

## 生物とは、そして人間らしさとは

安田 郁子

元 環境工学科教授、兼短期大学部教授

これまで多くの本を読んできましたが、どれも私にとっては教えられる点や考えさせられる点が多く、随分迷いました。悩んだ末に選んだのが、以下の3冊です。

### ①種の起源上・下 [ダーウィン (Charles Darwin) 著、渡辺政隆訳]

50数年前、私が大学生の時に読んだ本です。当時は八杉龍一訳でした。ここに挙げた渡辺訳は随分読みやすくなっています。この本はダーウィンの自然淘汰説が著されたものとして有名ですが、それは結論に過ぎず、内容の素晴らしさは、実に詳細に生物と環境との関係が記載されていることです。環境と一口に言っても、ここに記されている環境は、一時的な狭い範囲の環境から時間的(歴史的)・空間的に広大な変化を含めた環境まで考察の対象になっています。生態学の魅力を伝えてくれる本です。1859年に出版されていますが、今でもこれに勝る生態学の本は無いのではと思います。もしこの本を読んでいなければ、私は生態学のゼミを選ぶこともなく、富山県に就職することもなかったでしょう。私の人生に大きな影響を与えた本です。

### ②大地の子 全4巻 [山崎豊子著]

20年以上前に発刊されていますが、その頃はゆっくり読む余裕もなく、退職後に読みました。著者が3年間にわたり、現地で非常な苦労をしつつ調査した綿密な取材結果をもとに作られた大作です。戦争や他国への侵略の罪深さが、実によく描かれています。戦争とは人を人でなくすること、そうしないと生きていけない状況を生みだします。しかし、どんな過酷な状況の中でも、良心的な行動をし続ける人が居る、ということに救われる思いがします。侵略・略奪・殺人等々、これらは報復を生み、さらなる不幸の循環が続くにもかかわらず、今も世界のどこかで戦争をしています。「理性と寛容」の精神をもって、共生できる平和な世界をと願わずにはおれません。

③ターシャ・テューダの言葉2 楽しみは創りだせるものよ [文 / ターシャ・テューダ (Tasha Tudor)、写真 / リチャード・W・ブラウン (Richard W. Brown)、訳 / 食野雅子]

ターシャさんは、絵本作家、挿絵画家、ガーデナー等として有名です。この本は絵本ではありませんが、ターシャさんの語りと写真から構成されています。彼女は56歳からアメリカ、バーモント州の山奥で一人暮らしを始めました。庭造りをして種々の植物を育て、布や衣服、ろうそくなども手作り、コーギ犬や鳥、ヤギ、牛を飼い、ミルクをしぶり、チーズを作り、ほとんど自給自足の生活です。長年かかってやっと彼女の好む中世のような暮らしを実現させています。その原動力は、与えられた状況を生かしながら、夢や目的をしっかりと持ち続け、いつも楽しみを創りだしてきたということのようです。楽しみが周りに伝染して他人をも幸せにしていく、そしてまた自分に還って来る、といった幸せの循環を生みだしています。

## 近況

2010年3月に退職して、もう6年が過ぎました。退職後、まずは体力づくりをいろいろ体験しましたが、今でも続いているのは貯筋運動と太極拳です。太極拳は中国人の先生ですが、マンツーマンで上手に教えて下さるので、私のような高齢者でも徐々に進むことができます。少しずつでも上達していくのが嬉しくて、楽しみながら習っています。

もう一つ、趣味ではないのですが、年に数回、「川のすこやかさ調べ」の普及にも関わっています。この調査に使う「水辺のすこやかさ指標 (みずしるべ)」は環境省から2009年版として公表されています。退職後の数年間、日本水環境学会「水環境の総合指標研究委員会(現在は終了)」に所属したのですが、そこでは、この指標の検討とともに活用実績の積み重ねと普及に取り組んでいました。2011年当時、北陸では全く活用実績が無かったため、卒業生の方々にお願いし、一緒に富山県の河川でこの指標を使った調査を行ないました。やってみたら非常に簡単、県庁の環境関連の方々も積極的に活用して下さって、今では全国的にみても「すこやかさ指標」

の普及が一番進んでいるのは富山県と言われているくらいです。最初に協力して頂いた卒業生の方々のおかげですが、その後も毎年調査を続けて下さっていて、本当にありがとうございます。富山県の調査がきっかけで、福井県でも2年前から「川のすこやかさ調査」が始まっています。海の保全には流入河川の環境保全が一番大事ですが、この調査方法は住民目線で気軽にできるので、住民主体の河川管理には最適なものではないかと思っています。在職中は、こういった調査への協力はとてもできる状態ではありませんでした。退職したからこそできるのですが、残念ながら体力が年々落ちてきているというのが悩みです。とはいえ、体力の続く限り普及に協力したいと思っていますので、もし関心のある方がおられましたら、是非、私宛にご連絡下さい。

その他、旅行に出かけたり、自然素材の手作り食品や手縫いの小物を作ったりと、在職中には全くていなかつたことを体験しながら楽しんでいます。興味のあることを次々調べて選択して、自由に行

動できる状況にあることをつくづくありがたいと思っています。

(写真は昨年6月に県外に住む友人達を黒部峡谷に案内した時のものです。皆、峡谷の素晴らしさに感激していました。)



欅平 KEYAKIDAIRA

中部山岳国立公園 環境省・富山県・黒部市

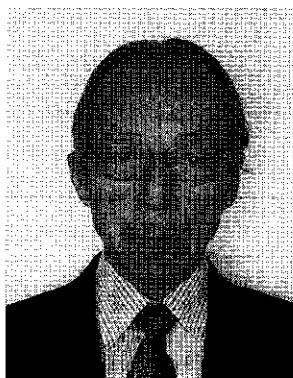
黒部にて 左から二人目が安田さん



## 時代小説が面白い

植松 哲太郎  
富山県立大学名誉教授

- ① 隆慶一郎『影武者徳川家康』(新潮文庫、上・中・下)
- ② 葉室麟『螢草』(双葉文庫)
- ③ 杉崎恒夫『パン屋のパンセ』(六花書林)



齢を重ねると固い本、難しい本は敬遠したくなる。悲しいことではあるが、もういいではないかとも思う。そんなわけで最近はもっぱら面白さを第一基準にして、日本の小説、それも時代小説を読むことが多い。

面白い時代小説の筆頭に①を挙げたい。関ヶ原の戦い開始直後に家康が本陣の中で暗殺され、素早く影武者が家康になります。以後十数年、大阪冬の陣、夏の陣、駿府へ引退後の秀忠との確執などが、数人の側近しか知らないまま展開する。関ヶ原で死んだはずの西軍の将が生き延びて偽家康の部下に入るなど、荒唐無稽も随所に織り込み、歴史のイフの世界がもっともらしく展開される。

読者は偽物と知っていて家康の陰謀を眺めるわけだから、手品師の側に立って騙される相手を眺めているような痛快さを味わう。

隆慶一郎、柴田錬三郎、池波正太郎、藤沢周平など、時代小説の名手は皆物故された。現在活躍中

の書き手では葉室 麟に注目している。②は最近夢中になって読んだ一冊である。2012年に直木賞を受賞した『蜩(ひぐらし)の記』(祥伝社文庫)で、その主人公の清冽な生き方に侍魂の凄さを感じ、すぐにファンになった。②と、さらにもう一冊『さわらびの譜』(角川文庫)はその女性版ともいべきもの。侍の血をひく少女が健気に清冽に生きていく物語である。『蜩の記』と違って女性版ではユーモアも交え、さらに万葉集の中の短歌を標題にも話の筋にも絡ませていて、読者の気持ちをほぐしてくれる。

最近、趣味で短歌の会に入り、指を折って字数を数えている。短歌の本も挙げておこう。③は九十歳で亡くなった歌人の晩年の歌集である。年齢を感じさせないみずみずしい詩情に溢れ、誰が読んでも気持ちが安らぐ。その中の一首を挙げておく。



仰向けに遡きたる蟬よ仕立てのよい  
秋のベストをきっちり着けて

植松近況：

体力、知力、感性の衰えを防ぐため、水泳、外国語ラジオ講座、短歌に励んでいます。

## 宗教と文化の違いに思いをはせる

奥田 實

富山県立大学地域協働支援室 統括コーディネーター

読書案内めいたものを書くのは、4度目になると  
思う。最初は、「県大ニュース」、それから教養教育  
が発行した新入生向けの「読書への誘い」、それと、  
地元紙に掲載された「わが青春の1冊」である。本  
誌にはそこで紹介した本とは異なる3冊について書  
こうと思ったが、1冊だけ重複を許していただきたい。  
藤原新也の『全東洋街道』上、下(集英社文庫)  
だけは、どうしても外せない。

本書は、写真家である著者の400日に及ぶ、トルコのイスタンブールから日本の高野山までの彷徨  
といつてもいい、旅の写真とその中で紡がれた文からなる。西洋に繋がる、東洋のさまざまな文化と人との出会い。アジア的な色彩に満ちたアンダーで粒子が粗い写真からは、人々の声と街が発する音とニオイが、さらに湿度までが見る者に届く。また、宗教とは何かについて、性を含めた生と死について深く考えさせられる本である。

藤原新也は書いている。「……何でもかんでも、  
出会わないものはなかったけど……やっぱりニンゲンが一番面白い。」偶然出会う人々との触れあい、  
視線の交錯を求める旅、そういう邂逅の旅に惹きつけられる。皆さん、旅に出よう。

次に、少々読むのに忍耐力がいるが、論理的な文の運びに魅せられるとともに、ミステリーの謎を解く面白さに引きずり込まれる翻訳書を紹介しよう。ウンベルト・エーコ著、河島英昭訳『薔薇の名前』上、下(東京創元社)である。昔、薔薇という漢字をさっと書いて、ある女優の心を射止めた作家がいたが、この本を読んだと言ったところで、異性にもてるわけではない。腐敗するローマ教会と対立する王権、そして清く貧しい生活を求める「笑い」をも否定する宗派。異なる者を差別・弾圧する時代、渦中

の修道院で、殺人事件が起こる。キリスト教の教義とその解釈、科学の進歩と宗教との関連などにも思いを馳せさせられる小説である。

デザートに軽い新書を。今、ベストセラーの井上章一著『京都ぎらい』(朝日新書)は、嵯峨育ちの著者が、京都市の中心部、下京区の旧家のご主人に田舎者呼ばわりされるところから本書は始まる。この書に示されているのは、差別にも繋がる、誰しもがもつ心の中の優越感や、劣等感である。「秘密のケンミンショー」で京都を自慢する伏見生まれの俳優もホンマの京都人とは言えないのかとへんに納得したりする。京の花街のお得意さんは、僧侶だそうだ。祇園のお茶屋の待合バーで、数人の僧侶が袈裟着て芸子と交互に座り戯れている場面を、百人一首の「坊主めくり」で、「姫、坊主、姫、坊主」と引いてしまう場面に例えたのには大笑い。井上は、時の権力と京都の寺院との関係についても書き綴っている。日本の宗教のあり方について考えさせられる本もある。

### 近況

定年後も、全国の高等教育機関の中で、約6倍の倍率を突破し、富山県では唯一選定された「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)を実施するために、環境工学棟の3Fにある『地域協働支援室』で統括コーディネーターの仕事をしています。学生たちが、ゼミの授業などで地域社会に行き、地域の人々と対話し、課題を考える取組のサポート役をしています。コミュニケーションの苦手な学生が、自ら進んで対話したり、成果を発表するまで成長する姿を見て、やりがいを感じています。



カンボジアのヒンドゥー教寺院から仏教寺院に改築された「パンテアイ・クティ遺跡」にて。

**CREATION of NIX**

それは、創る未来。



株式会社 新日本コンサルタント

■本社(富山市)・東京本社 ■富山空間情報センター ■新桜町オフィス  
■支店:金沢・大阪・多摩・堺京・横浜  
■営業所:中新川・南砺・新潟・能登・関西(神戸)  
[www.shinnihon-cst.co.jp](http://www.shinnihon-cst.co.jp)

「感謝」の気持ちと「技術」で応える  
感動につながる仕事づくり



砺波工業株式会社

代表取締役社長 上田信和

砺波市中央町3番21号 TEL(0763)32-3105

<http://www.tonamikogyo.co.jp>

 株式会社 中部設計

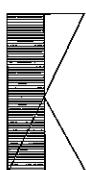
代表取締役 中瀬 壽

本社 〒930-0029 富山市本町10番2号  
TEL 076-442-4161 FAX 076-441-3704

加藤哲 設備設計事務所

建築設備設計・監理

加 藤 哲



〒939-2321 富山県富山市八尾町小長谷2143-3  
TEL 076-454-6325  
FAX 076-454-6345  
携帯 090-3764-6868  
e-mail katopo@cty8.com

平成27年度 同窓会総会

# 平成27年度同窓会総会を振り返って

平成27年度総会実行委員長 酒井 秀仁  
機械工学3期生

平成27年8月14日(金)ホテルグランテラス富山(旧名鉄トヤマホテル)にて富山県立大学同窓会が行われました。実行委員長として無事に同窓会を執り行えたことに正直ホッとしております。平成26年度の同窓会と比べると規模は縮小しましたが、関係してくださった皆様方のおかげで貴重な経験をすることができました。

私の学生時代の学業はぜんぜんダメ、もちろん授業の出席率も良くない学生で何のための大学生なのかと思われても仕方のないような状態でした。そんな中、卒業研究では、実験の進捗がイマイチで、研究室に寝袋で泊まり込んでなんとか論文を書き上げたことは良い思い出です。一番の思い出はその寝袋が、同じ研究室の男5人で使いまわしたためとても臭かったことでしょうか。

そんな私に実行委員の声がかかったことは、とても驚きでしたが、現在製造業に勤務できているのも本学での基礎があったおかげと思っており、恩返しのためにも引き受けさせて頂きました。(職場の先輩に頼まれて断れなかつたとは言えない…)

同窓会打ち合わせでの20年ぶりの大学は、とても懐かしく感じました、一方で、当時と比べて建物が大きくなっていることに卒業生としてうれしく感じました。

実際に同窓会の準備を進めていく中で最もハードルが高かったのは、「実行委員仲間を増やす」でした。仲間にしたくても、仕事等の都合で時間が取れない、県外や海外に在住、と様々な理由で核となる仲間を

増やすことが出来ず最初の一歩からつまずいてしまい大変困りました。そんな時に、助けてくれたのは平成26年度の実行委員をなさつた先輩方でした、様々な関係を通じて仲間拡大を支えてもらえたことに感謝でいっぱいです。

次のハードルは、「出席人数を増やす」という同窓会開催の周知活動でした。今回の主な対象である工学部3.4期生、短大部3.4期生、技術短1977年卒の方々へ人づてに事前にお伝えすることが、ハガキ案内よりも効果的と考えた上での取り組みでしたが現実はなかなか大変でした。(最終的にはハガキ案内で全周知としました。)

かなり不安な気持ちで同窓会当日を迎ましたが、同窓生は野開会長はじめ技術短大1期生の先輩から工学部6期生まで総勢68名、また来賓の方々は寺井理事長はじめ16名と幅広く多くの方々に出席してもらい大変安堵しました。同窓生の皆さん「母校を思う気持ち」や久しぶりに「なつかしの富山に行ってみようか」と同窓会をきっかけに行動に移してくださったことに感謝です。

同窓会が始まると、同級生同士では当時を振り返ったり、先輩や後輩の方々とは近況を語り合ったり、先生方とは現在の大学の状況を教えてもらったりと、楽しい時間を過ごすことができました。

また、私たち実行委員に対して、労いの言葉を多く頂いたことは大変嬉しく思いました。実行委員として関わった方々はじめ、皆様方に御礼申し上げます。ありがとうございました。



平成27年度同窓会総会（平成27年8月14日）

平成 27 年度夏期

# ポートランド州立大学語学研修

## 報告書

工学研究科 博士後期課程1年 金俊  
 生物工学科 1年 赤池美咲  
 情報システム工学科 2年 安久昌和

(学年は当時)



## 金俊

工学研究科 環境工学専攻 博士後期課程1年

私は今年度、富山県立大学が実施するポートランド州立大学語学研修に参加しました。以前からアメリカへ行ってみたいと思いましたが、なかなか機会が見つからず、やっと大学の募集案内を見つけ、参加しようと決意しました。また、将来の勤め先では英語を使う機会が多くあると考えて、将来につながるとも思い、留学を決めました。

渡米後、最初は不安でしたが、大学の先生やスタッフ、また、他の参加者みんながやさしく、自然に友達も沢山できました。渡米して3日目からは初めてのホームステイ生活が始まりました。私のホームステイ先では、母親と高校生の娘2人、犬2匹、猫2匹がいました。ホームステイ生活は私のイメージどおり、家族の一員として受け入れてもらい生活するものでした。早起き、通学、家事の手伝いなど、両立しなければならないことが多く大変でしたが、それらが自分を自立させてくれたと思います。また、家事を手伝うことで英語を使ってホストファミリーとの会話を楽しむことができました。文化や単語などわからないことも熱心に教えていただき、その熱意ややさしさがとても嬉しく、大変勉強にもなりました。これこそ、この語学研修の最大の魅力だと思います。今後も一生懸命に英語を勉強し、またいつかアメリカの家族と会う時に流暢な英語を話せるよう頑張りたいと思います。

留学をして、主に2つの変化があったと思います。



中段右から2番目が筆者 教室で先生や同じクラスの参加者と

一つ目は、英語を話すことが楽しくなったことです。今まで英語を話すのは恥ずかしいと思い、躊躇していました。アメリカから戻ってくると、知らぬうちに英語が口をついて出てくることに気がつき、驚きました。二つ目は、今後の進路についてより深く考えるようになったことです。今回の留学を通して、改めて“自分は英語が好きなんだ”と実感しました。将来、英語を使って活躍したいと思い、これから何をするべきなのかを真剣に考えるようになりました。この留学は最高の友達ができ、一生に忘れない思い出になったと思います。

最後になりますが、この語学研修に参加するにあたり、富山県立大学同窓会から助成金をいただき、この場を借りて心より感謝申し上げます。



## 赤池美咲

工学部 生物工学科 1年

私は、元々留学に特に興味はなく、また、英語も得意ではないのでアメリカに行っても大変なだけだと思い、自分には無理だと思っていました。そんな自分にとってアメリカに留学しようと思ったきっかけは大学が開いた留学報告会で話を聞いたことでした。留学報告会は、教養ゼミの授業の一環として開かれたもので、留学経験者の先輩方から写真を交えてのプレゼンテーションを聞くことができました。すると、現地での話を聞いているうちに、もっと自

分でも見てみたい、体験してみたいという思いが強くなりました。また、今まで自分が勉強してきた英語はどのくらい使えるのだろうとか、留学して向こうの大学で勉強できるのは今しかないのではという思いから、心配な面も多くありましたが留学することを決意しました。

私たちがアメリカで体験した主な内容は、ポートランド州立大学での授業とホームステイです。授業では実践英会話や現地での暮らしを学び、学外活動ではアメリカの文化を学び、実際にそれを見たり体験したりしました。ホームステイでは、ホストファ

ミリーと一緒に食事をしたり、犬の散歩をしたり、また休日には様々場所へ一緒に出掛けました。他にもホームパーティーを開くなど、アメリカでの暮らしを存分に体験することができ、私は本当に素敵な家族と出会うことができたと思います。ホストファミリーには本当に感謝しています。ぜひまた彼らに会いに行きたいと思います。

私はこの留学でいろんな経験をすることができました。授業は全て英語で進んでいくため、常に集中力が必要でした。しかし、やはり現地で実際に見たり聞いたりすることは今まで日本の学校で勉強してきたものとは違い、貴重な経験になりました。また他の日本人留学生も皆とてもやる気があり、活発な

授業を体験することができました。異文化に触れることはとても楽しく、同時に日本の文化についても考えることができました。最初は不安でしたが、今は留学して本当に良かったと思います。将来の自分にとってこの経験を活かせるよう頑張っていきたいと思います。



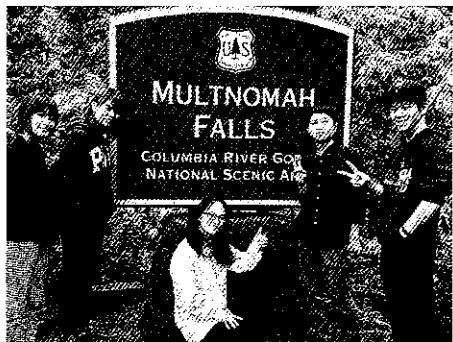
左から3番目が筆者  
ダウンタウンにてホストファミリーと

## 安久 昌和

工学部 情報システム工学科 2年

参加を決めた動機は、主に3つあります。第一に、英語の上達です。今回の語学研修は、約3週間と短いので会話能力の上達はあまり見込めなくても聞き取り能力の上達は3週間の留学でも格段に上達するはずだと思ったからです。第二に、アメリカの文化を知りたかったことです。今回の研修にはアメリカの文化について学ぶことができる授業がありました。第三に、もう一度留学をしたいという気持ちが大きくなつたからです。私は昨年、中国の瀋陽化工大学にも短期留学し、海外に出てたくさんのことを見ました。次は、アメリカの文化について知りたいと思いました。以上の動機から、新しい自分の発見と成長の良い機会であると思い、思い切って参加を決めました。

今回の留学では、楽しかったこと、辛かったことなど思い出が沢山あります。ホストファミリーと海に行って散歩をしたり、浜辺に座って語り合つたりしました。私のホストファミリーはインド系アメリ



右端が筆者 マルトノマ滝で県立大の参加者と

カ人で、ある休日はホストファミリーの友人宅に招いてもらい、たくさんの人と話すことができました。ついでに、簡単なインド語も教えてくれました。自分も日本の文化を教えようとしたら、なんと言えばいいのか分からず英語で自分の言いたいことを伝える大変さを痛感しました。ただ、その人たちに箸の使い方を教えたときはとても喜んでくれました。また、今回の留学で一番印象に残っているのは、午前の英語授業と、午後の選択授業です。授業中は会話するときは英語で日本語は禁止だったので、とても大変でしたが、親切に教えてもらい、楽しみながら学ぶことができました。午前は、アメリカの通貨のことや街頭インタビューなどをを行い、午後のクラスでは、アメリカと日本の違いや、シアトルに旅行した後にポートランドとシアトルとの違いなどについて班に分かれて話し合い、発表を行いました。

この留学は3週間と短いものでしたが、私の今後の英語学習意欲や国際理解への、大きなモチベーションとなりました。これから自分の行動を大切にしていこうと思います。

## Life with Green Technology

環境技術でひらく、豊かな暮らし

# 三協アルミ

富山支店ビル建材部  
〒930-0982 富山市荒川3-2-6 TEL(076)492-0083

**MADO** ショップ 黒部生地店  
■サッシ ■網戸 ■鋳前 ■自動ドア ■エクステリア  
ブログ更新中! イクジのガラス屋さん 検索

株式会社 紙屋ガラス建硝  
黒部市生地芦区22  
電話 57-1215 FAX 57-1282

—我々は創造する楽しみを持つことだ—

◎ 竹沢建設株式会社

代表取締役 竹澤由之

本店 〒934-0056 富山県射水市寺塚原836番地3  
TEL(0766)84-8888代 FAX(0766)84-8865

## 平成28年同窓会総会のお知らせ

### 日 時

平成28年8月13日(土)  
 15:30 受付開始  
 16:00 総会  
 17:00 懇親会

### 会 場

グランテラス富山(旧名鉄トヤマホテル)  
 富山県富山市桜橋通り2-28  
 電話 076-431-2211

### 懇親会参加費

4,000円 当日会場にてお納め下さい。  
 尚、懇親会には酒類もご用意しております。

飲酒運転となりますので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

出席される方は7月8日(金)までに下記へご連絡ください。同封のはがきでも申し込みいただけます。

### 連絡先

富山県立大学同窓会事務局 荒木薫  
 〒939-0398  
 富山県射水市黒河5180  
 TEL 0766-56-7500 (内線130)  
 FAX 0766-56-0396  
 E-mail senpyokai@pu-toyama.ac.jp

## 声

### ♣谷村 実(技・機械1966年卒)

県立大学は看護学部や医薬品工学科の新設で県民の期待に応える次世代の人材育成や研究開発を通じて更なる地域貢献が求められると思います。千瓢での「これからの中窓会」記事の中で会の4つの柱の一つである『地域社会に貢献できる中窓会』として、目に見える実践活動企画されたらぜひ参加してみたいと思います。太閤山周辺の環境保護・育成事業等如何でしょうか。

### ♣深沢 広治(大谷・7草農)

毎号楽しく有意義に「千瓢」をみております。県立大学のますますの発展と中窓会の躍進を願っております。県庁時代に大変お世話になった寺井幹男理事長の記事を何回も読み返し力強いメッセージが伝わってきました。6年間の中期目標実現を微力ながら応援したいと思います。

### ♥館 身果(短・6生物)

前回は京都さん。今回は信田さんの投稿があり同級生が出ていると楽しくなりますね。

### ♥水野 晃美(技・22農機)

退職される佐藤幸生先生に短大時代習いましたので急にその頃にタイムスリップし、懐かしく思い出されました。

### ♣早川 俊一(大谷・1草農)

千瓢が届くと題字を拝見してゆっくりと読んでいく。至福を感じる。卒業して50年。その間に親類になった上谷先生退職のニュース。内山先生を偲んでの記事、先生方ほど立派な働きはとてもできないが少しでも世の中に役立とうと思う。

### ♣位寄 史好(技・10農土)

荒木甫会長が20年間中窓会のお世話をされてお疲れ様でした。私は荒木さんが富山県福野土木事務所長の時にもお世話になりました。いつも和やかで職場もなごやかな雰囲気で職員一同のびのびと仕事をしておりました。この人柄が長く平穡に中窓会をまとめ上げられたと思います。今後ともお身体にきをつけられてお過ごしください。

## 編集後記

▼先号の「私の好きなもの」で登場された遠藤和夫氏(大谷技術短期大学・農業機械科5期・1968年卒)から「ちょっと振り返りますと、短大での2年間は、小中学生と同様に月曜日から土曜日までびっしりと講義が詰まっており、レポートの作成に追われる毎日でしたが、部活動(陸上部)やイベントの数々、アルバイト、片思い、更に立山登山もできて中身の濃い充実した青春の一齣であり、その後の人生の糧になっています」というようになりました。それに趣味のバラの写真が添付されていた。文章も添付されていた。「特にバラは当時の渋川利雄主任教授が短大の庭に多数育

ておられたことが印象深く覚えております。多分、今も門の近くか体育館の辺りに咲いていること思います。」

▼バラについては、初代富山県立大谷技術短期大学の谷学長さんも好きでよく手入れをしておられた事を思い出す。

▼今号から「3冊の本」がスタートしました。お楽しみください。

▼今号にも、アンケートはがきを同封しました、お便りをお待ちしています。では次号まで。

▼11号の編集の最中に熊本地震が発生、熊本に寄り添っていきたいと思った。



遠藤和夫さん撮影のバラの花

(池上 効)